

多様性を受け止め、認め合える社会へ～パートナーシップ制度

多摩市でも2月から「パートナーシップ制度」が始まりました。

パートナーシップ制度とは「戸籍上同性であることなどから婚姻できない2人に対して、証明書などを発行し婚姻関係と同等のサービスを受けられるようにするものです。

多摩市には性的マイノリティの存在にも目を向けた「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」がありますが、その趣旨にとって、さらに必要な対応であり、具体的な取組みとしてパートナーシップ制度をスタートさせることができ、一人ひとりを大切にすまちづくりがもう一歩前に進むこととなりました。

3月末、LGBT_JAPANの皆さんが主催の「ダイバーシティなごみ拾い」に参加してきました。「セクシャリティ」の問題などお互いガードを設けず、自由におしゃべりしあえる関係を作っていきたい…そのためにみんなでワイワイ乞田川の清掃活動をしようよ！という取組み。

永山橋のところがゴール。記念撮影。



みんな違って当たり前、フランクに会話ができることの心地よさと共に、「ゴミは持ち帰ってほしいなあ」…私たちのマナーについても考えさせられたひとときでした。次回は5月21日土曜日の午前中の開催を予定しているそうです。

詳細はLGBT-JAPANのホームページへ。



阿部市長も公務の途中で立ち寄り、ねぎらいの言葉を！環境政策課、平和・人権課の職員さんたちも参加しました。

PROFILE

1977年 兵庫県神戸市生まれ／1989年 北諏訪小学校卒／1992年 桐朋女子中学校卒／1995年 桐朋女子高等学校（普通科）卒／1999年 中央大学法学部政治学科卒／1999年～2002年 中小企業金融公庫（今の日本政策金融公庫）勤務／2006年 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科修了（公共政策学修士）
2002年4月 多摩市議会議員補欠選挙当選以降6回当選
2022年現在 議員歴20年 諏訪2丁目在住

Phone&Fax 留守番電話専用電話

お名前、ご用件と希望する連絡先・アドレスなどをお願いします。
☎: 042-371-0763 mail: hisaka_box@yahoo.co.jp

多摩市議会議員 無所属

岩永ひさか Report

<http://www.iwanaga-hisaka.net/>

発行/岩永ひさかと夢・まち会議 Phone (留守番電話専用) / 042-371-0763



あっという間に5月を迎えてしまいました。多摩市に住んでよかったなあと思いを一段と強くする季節です。みどりが美しくなり、一年で最も躍動感を感じます。

3月議会が閉会した直後に市長選挙が行われ、阿部裕行市長が再選、4期目のスタートとなりました。私は、新型コロナウイルスへの対応を安定的に継続していく必要性も含め、熟慮した結果、国や東京都との信頼関係を構築し、医師会とも良好な関係を維持されてきた阿部市長の努力を継続してほしい、また、阿部市長の責任のもと、将来を見据えた市政運営の課題解決の道筋をつけていべきと考え、応援しました。

世代交代をすべき、4期は長すぎるなど批判もありましたが、特に私が重視したのは市議会との関係性。首長と市議会が馴れ合い、持たれ合わず、緊張感を維持しつつ、しかし、常に緊迫だらけで、市政が前進するどころか停滞しかねない事態だけは避けなければならないとの気持ちもありました。やはり、誠実な態度で市政に向き合えるかどうかも重視しました。

価値観が多様化し、それを認め合いながら市政の現場で決定していくためにはそれなりの時間がかかります。強いリーダーシップが独断と偏見にならず、首長が独善的に市政をけん引しないよう監視するところに議会の存在意義があり、議員がいる。改めてそのことを深く意識し、これまで同様、阿部市長に対し「是々非々」の立場から、政策提案できる議員として今後も活動していきたいと思っています。

やっと市議会レポートが発行できました。ホッとしています。

岩永ひさか

Policy & Style

公平公正な姿勢！
市民全体に向けた活動を心がけ、個人後援会はつくりません。

政策づくりが議員の仕事！
議員としての専門性を磨き、市民の自治力の向上をバックアップします。

話し合いが大切！
意見の違いは粘り強く議論をつづけることで、「第3の道」を見つける努力をします。

Pickup!



市長の続投をめざして、活動しました！

積み残しの課題解決に期待！ 阿部市長4期目に期待すること。

「未来への投資」を「未来への負担増」にしてはいけない。

人口減少社会を見据えるということ。

将来、人口が減少に転じ、「まち」が成り立たなくなり、「まち」が消滅することを指摘したのは東京都知事選挙の候補者にもなった経験のある増田寛也元岩手県知事。総務省大臣もされていましたね。

当時、ものすごい反発があったことを思い出しますが、しかし、今はすでに「人口減少」を前提にしているような気がします。

多摩市の2047年までの人口予測が出されていますが、このままいけば、現在人口147,552人（令和4年4月1日時点）が、10万人台まで落ち込むことが予測されています。

市長選挙を通じ、阿部市長は「未来への投資」が必要であり、そのためにパルテノン多摩の大規模改修、中央図書館の建設、あるいは市民活動の新たな拠点となる旧北貝取小学校の改修工事による「市民活動・交流センター」の新設などに取り組む決断をしてきたことも強調し、市民の皆さん一人ひとりの人生を豊かにしていくためのステージをつくってほしいと訴えておられました。

おすすめの一冊 「22世紀を見る君たちへ」～これから生きるための練習問題 平田オリザさんの著書。かつて演劇部員だった私は、演じることで多くを学んできたなあ振り返ることが多いのです。演劇教育…多摩市でも取り入れていきたい。学芸会が廃止される学校もあると聞いて、本当に残念。

もちろん、私は、市長の訴えには共感しますし、大賛成です。

しかし、私は阿部市長が少し前のめりになりすぎていないかと懸念し、特に、多摩中央公園を壊して建設する中央図書館工事、旧北貝取小学校の改修により設置する新規施設工事については、もろ手を挙げて賛成できず、「慎重に取り組むべき」と考え、反対してきました。



中央図書館の建築が着々と進んでいる。

忘れてはならない長期的な視点。負担するのは少ない人数の若い世代。

なぜなら、公共施設問題とは、一時的な建設工事費用だけでなく、長期的な視点で維持管理し、運営し続けていかなければならない経費のことも考えていくべきだからです。人口増を前提にして増やしてきた公共施設を持ち続けることができないことは明らかであり、この現実から目を背けることはできません。

とは言え、私個人としては反対の態度表明をしてきたとはいえ、結果的には、市議会の多数が賛成し、市議会としても市長の取組みを後押ししてきたことを思うと、今後、責任を持ち、将来への財政負担も考慮した市政運営のために、今まで以上に厳しい視点が求められると考えています。先送りできない、まさに積み残した課題であると思います。

「未来への投資」とは、何とも格好よく聞こえる言葉ですが、「未来への負担増」に転じてしまっは元も子もありません。

新しい施設をつくれば、当然ながら必要な運営、維持管理は増えます。

例えば、4月からオープンし、そのオープニングイベントは盛況だったと伺っていますが、旧北貝取小学校の「市民活動・交流センター」「多摩ふるさと資料館」についても、指定管理料は42,973千円。



パルテノン多摩の4階には新たに子育て支援の拠点が設置された。「未来への投資」…真価が問われていく。

公共施設の屋根を発電所に！

2050年に二酸化炭素排出実質ゼロに向けて、私たちは何ができるか。地産地消のエネルギーをどう確保するのか。多摩市は市民と一緒に取組みを進めてきましたが、もっとその動きを加速化しなければ、間に合いません。生活環境常任委員会では「気候非常事態宣言」を踏まえ、さらなる政策推進をめざし、調査活動を進めています。

写真はエコプラザの屋上。市民の出資で太陽光パネルが設置され、市民による日常管理も行われています。



もちろん、より良い施設になったことは事実ですが、今まで、旧東永山小学校跡地を市民活動支援に活用していたのとは異なる施設の維持管理、運営費用をかけることになりました。

※学校跡地施設の市民開放経費については、校舎も含めて活用していた旧東永山小学校跡地、他にも校庭、テニスコート等開放している施設もあり、2021年度決算では維持管理費用合計は全施設で19,761千円。

「あれもこれも」から、私たちも「選択」をしていく時代。

これからの時代、暮らしをいかに維持していくのか。最近では物価の値上げも続き、税金も安くはならず、暮らしに厳しさが増えています。そうした中、公共施設が気軽に手軽に利用できる環境があり、文化・スポーツ活動や市民どうしの交流ができるような場所の存在意義は大きいでしょう。

一方、やはり、それらを維持しているのもまた私たち市民であることを度外視して考えることはできません。「将来にツケを残さない」としてきた阿部市長には、こうした課題も直視し、持続可能な市政のために真摯に向き合っていただくことを期待するとともに、議員としても共に考えていきたいと思います。